

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町65
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

全聖公会首座主教会議から

首座主教 ナタナエル 植松 誠

全聖公会の38管区(合同教会も含む)の首座主教会議は毎年行われるが、今回は2月15～19日、東アフリカのタンザニアのダル・エス・サラームで開催され、日本聖公会からは主教植松誠が首座主教として初めて参加した。今回の首座主教会議は早くから世界的に注目されており、その結果次第では世界の聖公会(アングリカン・コミュニオン)が分裂するのではという憶測が流れていた。その中心的な問題は、昨年6月に行われた米国聖公会総会が、同性愛者の主教按手と同性同士の「結婚」(ユニオン)に関して、先に発表されたウインザー・リポートの要求に対してどのように応えたか、またそれを首座主教会議はどのように評価するかという点にあった。米国聖公会で、2003年、同性のパートナーと生活している司祭が主教に按手されたこと、また同性同士の「結婚」(ユニオン)の祝福が行われていることに対して、いくつもの管区が米国聖公会との「損なわれた交わり、壊れた交わり」を表明しており、また米国聖公会内にも、自分たちの教区・教会から離脱しながらも世界の聖公会との交わりを求める人々が数多く出ていて、その人々の求めに応じてアフリカの管区から主教が米国を訪れて司牧するという異常事態が起こっている。

ウインザー・リポートに対する米国聖公会総会の決議は、同性愛者の主教按手と同性同士の結婚の祝福に関して遺憾の意を表して謝罪し、今後はこのようなことが起こらないことをうたっているが、今回の首座主教会議は、それらを不十分と判断し、特に同性同士の結婚に関して、米国聖公会主教会の明白な否定の表明を求めた。また、米国聖公会内の混乱を解決するための司牧会議とその方策についても提案した。更に、今後、このような事態が起こらないように、「聖公会の在り方」のような基準を策定し、その「聖公会契約」を各管区が批准する方向を定めた。

これらによって、聖公会分裂の危機はひとまず避けられたように思えるが、この首座主教会議の結果には、必ずしもすべ

会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加)

および2月25日以降)

2月

- 13日(火)派遣委員の集い
- 26日(月)収益事業委員会
- 26日(月)～27日(火)文書保管委員
委員会・作業会
- 27日(火)～3月1日(木)主教会(横浜)

3月

- 2日(金)主事会議
- 5日(月)ジェンダープロジェクト(京都
聖三一教会)
- 5日(月)主事会議(2日に変更)
- 5日(月)教区制改革委員会
- 5日(月)神学教理委員会
- 5日(月)～7日(水)日韓協働プロジェ
クト(30日に変更)
- 6日(火)聖公会/ルーテル教会協
議会(ルーテル市谷セン
ター)
- 7日(水)正義と平和委員会
- 7日(水)日韓協働プロジェクト
- 12日(月)文書保管委員作業会
- 15日(木)聖公会/ローマカトリック教
会合同委員会
- 19日(月)～20日(火)文書保管委員
委員会・作業会
- 22日(木)渉外主査会
- 26日(月)礼拝委員会
- 27日(火)財政主査会
- 27日(火)～29日(木)新任研修会(狭
山)
- 30日(金)日韓協働プロジェクト合同会
議

4月

- 1日(日)青年委員会
- 11日(水)主事会議
- 11日(水)年金の将来を検討する特別
委員会
- 12日(木)収益事業委員会
- 18日(水)常議員会
- 23日(月)～24日(火)文書保管委員
委員会・作業会
- 24日(火)～26日(木)人権担当者の
集い(狭山)

<関係諸団体会議等>

(次頁へ続く)

ての首座主教が納得している訳ではなく、多くの問題と更なる混迷が予測される。また、アフリカで初めて開かれた首座主教会議でありながら、アフリカの諸管区が直面する貧困、HIV / AIDS、内戦、飢餓などについて議論することもなかったのは極めて残念であった。

(前頁より)

3月6日(火)~16日(金)
Towards Effective Anglican
Ministry(南アフリカ)

3月19日(月)
WCRP理事会

4月27日(金)
日本キリスト教連合会総会

ウガンダ報告会から学んだこと

管区事務所総主事 司祭 ローレンス 三鍋 裕

2月18日に、日本キリスト教団北白川教会の日曜礼拝に参加しました。長いけれども心の優しい牧師さんの説教でした。聖句はアモス書第5章で「わたしはお前たちの祭りを憎み、退ける。祭りの献げ物の香りを喜ばない。(中略)正義を洪水のように恵みの業を大河のように尽きることなく流れさせよ。」でありました。礼拝後のご挨拶で困りました。「私の正式なタイトルは司祭でありまして、ちょっと意味が違いますが祭礼を行うのが職務です。先ほどのお説教には頭を抱えています。しかし、皆様と一緒に正義と恵みの業にも励みたいと思います」と申し上げておきました。

実はこの北白川教会を中心に「ウガンダ北川会」というのがあって、先年まで日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)からウガンダに派遣されていた北川恵以子医師の働きを支援して来られたのです。北川医師のウガンダ報告会が開かれたのでお邪魔した次第です。多くはありませんが聖公会の方も参加しておられました。

日本聖公会も大斎克己献金の「重債務国復興支援資金」からウガンダのチオコ病院の、主にエイズと栄養障害の子供たちのための働きを支援しております。つまり、北白川教会は日本聖公会の協働者といえますので、一度はお伺いしたいと思っていたのです。

ウガンダのエイズについては以前にもご報告しましたが、今回の報告会で伺った幾つかのことをご紹介します。村々を保健指導と栄養

指導に回ります。女性たちが変わるそうです。普段は男性の陰に隠れているような女性たちが、自分のため、自分の子供のために勇気を出して質問したり意見を述べるようになるそうです。誤解も解けます。「病院に行ったら注射で殺される」という誤解もありました。病院に来たときには既に重症で、治療の甲斐なく亡くなっただけなのですが、この病気は悪霊の祟りだと信じている人も多いため、患者さんに対する偏見・差別も生じます。正しい理解がこの病気を克服する第一歩です。

薬を飲んで栄養に注意すれば、それなりに長生きできることを理解してもらおうのです。以前の首座主教会議の報告にもあったと思いますが、エイズは大問題、しかし結核やマラリヤも忘れてはならない。そうなのです。薬が手に入ればの話ですが、薬はHIVウイルスを抑えるだけで、結核、マラリヤ、下痢、栄養障害による体力消耗は急激な病状の悪化となります。特に体力の無い子供にとっては、命取りになります。長い長い道のりです。

決してすべてが上手く行っているわけではありませんが、小さな希望が見えてきた面もあります。アウトリーチ・クリニックというのがあります。カトリックの施設です。フロントルの掛かった聖卓が薬品や医療器具を置く台に使われています。これも主のご用ですから。ボランティアスタッフの多くは患者さんなのです。受けるだけでなく、自分たちも助け合うことが始まってい

るのです。背景もあります。患者さん以外は理解できない、理解しなくても良いという訳ではありませんが、患者さん同士の方が理解しやすいのも事実でしょう。同じお国の中に色々な言語があり混乱しますから、医師や看護師と患者さんの間に通訳のボランティアも必要になります。毎日決まった時間必ず決められた薬を飲まなければならないことも説明しなければなりません。このことは村々を訪問して、近所の比較的教育のある人に日々患者さんをサポートするように依頼することも必要になります。病や貧困は薬やお金だけでは解決しません。外部からの援助も必要ですが、自分たちの力で助け合わなければ解決しないのです。

現地スタッフの養成も重要です。医師を養成しても、多くは待遇の良い外国に出てしまいますので、訓練された看護師やエイズ・カウンセラーの働きが不可欠です。私も3年前に会いましたが、アルフレッドというエイズ・カウンセラーがいます。優秀で誠実な人なので奨学金を得て勉強し、幹部昇進の道が開けました。でも、彼は断りました。「幹部になるとデスクワークになる。自分は村人と一緒にいて、直接彼らの役に立ちたい」とのこと。こういう献身的な人材が時間が掛かってもウガンダを救うのでしょうか。ちなみに彼は内戦に巻き込まれて苦労し、小学校の教育課程を終えたのは30才を過ぎてからのこと。こういうお国で貧困・病と闘っているのです。僅かな金額ですが、わたしたちの大齋克己献金は、このような人々が自分たちの力

で子供たちの将来を守ろうとしている奉仕にも役立てられているのです。お祈りと共にお支えいただければと存じます。

最後に日本の状況はというと、正確な人数はつかめないのですが、先進国の中で唯一HIV感染者が増え続けているのです。感染に気が付かない人、病気を確認することを恐れて検査を受けない人、周囲の偏見を恐れて治療を避けている人も多くいるようです。不法滞在といわれる人には、摘発の懸念もあって医療の補助を受けにくいこともあるでしょう。小さな教会には大きなことは出来ないかもしれません。しかし、エイズに限らず不当な偏見を受けている人々、社会から見過ごされがちの人々に寄り添うことは教会にも出来ますし、教会こそが出来る大切な務めではないでしょうか。主イエスさまは心や身体に傷を負った人々に寄り添ってくださったのですから。

3月初旬には南アフリカに参ります。Towards Effective Anglican Ministry (TEAM) という会議ですが、貧困とエイズも中心的な話題の一つになるでしょう。公式発表だけでも全人口の少なくとも1割以上がHIVに感染しているお国です。ここにも予防教育と患者さんの尊厳を守る教育のために、わたしたちの献金を捧げています。暗い話だけではなく、人々がどのように理解し合い、助け合いながら困難を克服しようとしているかを学んで来たいと願っています。

常議員会

1. 2006年度管区一般会計収支予想承認の件 承認
2. 2007年度管区一般会計補正予算案見送りの件(責任役員会決議) 承認
3. 日本聖公会管区事務所管理人規程(案)承認の件(責任役員会決議) 承認
4. 日本聖公会管区事務所職員給与規程
- (案)承認の件(責任役員会決議) 承認
5. 大齋克己国内伝道強化プロジェクト選定の件
2007年の大齋克己献金による国内伝道強化プロジェクト応援先を市川聖マリヤ教会浦安集会(横浜教区)に決定。
6. 訓練計画資金運用規程(案)承認の件 承認
7. 宗教法人日本聖公会九州教区規則変更

承認の件(責任役員会決議) 承認

8. 聖歌集改訂委員会任務継続の件 否決
総会決議に因り、聖歌集改訂委員会の任務は礼拝委員会が引き継ぐことになっていることを確認し、否決した。

9. 海外出張承認の件 承認

出張者：総主事

目的：TEAM=Towards Effective Anglican Ministry

場所：南アフリカ・ヨハネスバーク

期間：3月6日(火)～16日(金)

主事会議

第56(定期)総会期第6回 2月5日(金)

主な協議

1. パレスチナのための献金送金について
総主事と渉外主事が確認の上、指定に応じて送金する。
2. NCC部落差別問題特別委員会委員変更について
中川英樹司祭の辞任に伴う後任について、人権担当者に推薦を依頼する。
3. 管区諸委員補充について
(1) 法規委員会：1名(定員5名のところ現在4名)
(2) 年金委員会：1名(信徒2名のところ現在1名)
(3) 神学教理委員会：1名(定員5名のところ現在4名)
それぞれの委員会の推薦を参考にして決定する。
4. 礼拝委員会からの要請について
主事会議の意見を添えて常議員会に提出。

次回以降の会議

3月2日(月)、4月11日(水)

各教区

東京

- ・第104(定期)教区会 3月21日(水)9時～17時 聖アンデレ主教座聖堂・聖アンデ

レホール

中部

- ・中部教区センター落成式 3月21日(水)
(新住所)466-0034愛知県名古屋市昭和区明月町2丁目28-1

神戸

- ・聖職按手式 3月21日(水)11時 神戸聖ミカエル大聖堂 執事按手 志願者：聖職候補生 ダビデ林 和広

大阪

- ・第95(臨時)教区会 3月18日(日)15時～16時半 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)

沖縄

- ・聖職按手式 3月21日(水)10時半 北谷諸魂教会 司祭按手 志願者：執事 アンセルム目崎甲式

神学校

ウイリアムス神学館

- ・2006年度卒業式 3月15日(木)11時 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 説教：横浜教区主教 遠藤 哲
卒業予定者：ミカエル大居雅治(横浜)、ペテロ松田浩(横浜)、バルナバ吉川智之

立教学院奨学金についてのお知らせ
立教学院では、1998年度から「聖公会教役者の子及び聖公会神学院校長の推薦する大学院学生に対する立教学院奨学金規程」を制定しており、聖公会教役者の子で、立教学院の各学校の児童、生徒・学生に対して奨学金を交付しております。つきましては、次年度対象となる方がいましたら、申請されますようお願いいたします。

なお、申請の受付は小学校、池袋中高、新座中高は各校事務室、大学は財務部でおこなっており、締め切りは4月末日です。

(横浜) ヨハネ荒木太一(京都) マタイ出
口創(京都) パウロ井上進次(大阪)
聖公会神学院

・ 2006年度卒業礼拝 3月17日(土)14時
聖公会神学院諸聖徒礼拝堂 説教：北関
東教区執事 鈴木育三

《人 事》

北海道教区

司祭 ペテロ大町信也	2007年3月31日付	小樽聖公会管理牧師の任を解く。
主教 ナタナエル植松 誠	2007年4月1日付	小樽聖公会管理牧師に任ずる。
司祭 ヤコブ福島忠男(北関東)	2007年4月1日付	小樽聖公会において、主教植松誠管理のもと、囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
ヨハネ池田 ^{とおる} 亨	2007年1月25日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。

東京教区

司祭 ハンナ石坂みゑ子	2007年1月20日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会副牧師任命
司祭 ビード李民洙	2007年1月20日付	聖パウロ教会副牧師任命
司祭 グレース神崎和子	2007年1月20日付	池袋聖公会副牧師任命

横浜教区

司祭 ダビデ山崎 剛	2007年3月31日付	定年により退職とする。 銚子諸聖徒教会牧師の任を解く。
司祭 ラファエル宮崎 仁	2007年3月31日付	柏聖アンデレ教会牧師の任を解く。
	2007年4月1日付	浜松聖アンデレ教会牧師に任命する。
司祭 セドリック竹内 弘	2007年3月31日付	浜松聖アンデレ教会牧師および島田伝道所管理牧師の任を解く。
	2007年4月1日付	横浜聖クリストファー教会牧師に任命する。
司祭 ルカ片山 謙	2007年3月31日付	横浜聖クリストファー教会牧師の任を解く。
	2007年4月1日付	銚子諸聖徒教会牧師および付属聖母保育園チャプレンに任命する。
司祭 シモン長野 睦	2007年4月1日付	島田伝道所管理牧師に任命する。
司祭 Kevin Maddy	2007年4月1日付	横浜山手聖公会副牧師、クライストチャーチ協働司祭に任命する。
聖職候補生 ジェローム村上守旦	2007年4月1日付	司祭アンデレ橋本克也司祭管理のもとで柏聖アンデレ教会勤務を命ずる。
聖職候補生 ペテロ松田 浩	2007年4月1日付	司祭ヤコブ三原一男の管理のもとで市川聖マリヤ教会ならびに浦安集会勤務を命ずる。

聖職候補生 バルナバ吉川智之	2007年4月1日付	司祭ヨハネ相澤牧人管理のもとで厚木聖ヨハネ教会勤務を命ずる。
聖職候補生 ミカエル大居雅治	2007年4月1日付	司祭 マツテヤ大澤克次の管理のもとで南三原聖ルカ教会勤務を命ずる。
ペテロ友寄景方	2006年12月13日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。
聖職候補生 ペテロ友寄景方	2007年4月1日付	司祭マタイ春日隆の管理のもとで横浜聖アンデレ教会勤務を命ずる。
司祭 オーガスチン中山統永(退)	2007年4月1日付	司祭マタイ春日隆の管理のもとで横浜聖アンデレ教会において、囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 テモテ石川雄基(退)	2007年4月1日付	ベタニヤ・ホームチャプレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 清家智光(退)	2007年4月1日付	聖ステパノ学園およびエリザベス・サンダースホームチャプレンを委嘱する(任期1年)
執事 アンデレ村松宣夫(退)	2007年4月1日付	司祭サムエル小林祐二のもとで安房大貫キリスト教会において、囑託執事として勤務することを委嘱する。(任期1年)
主教 ヤコブ遠藤 哲	2007年4月1日付	大磯聖ステパノ礼拝堂管理牧師に任命する。
< 信徒奉事者認可 > (千葉復活教会) 永井直行	2007年2月13日付	
<u>中部教区</u>		
司祭 サムエル大西 修	2007年3月31日付	名古屋聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。
司祭 テモテ野村 潔	2007年3月31日付	稲荷山諸聖徒教会管理牧師の任を解く。
司祭 マタイ箭野直路	2007年3月31日付	新生病院チャプレン、新生礼拝堂牧師、飯山復活教会管理牧師の任を解く。
司祭 パウロ松本正俊	2007年4月1日付	中部教区への転籍を許可し、新生病院チャプレン、新生礼拝堂副牧師に任命する。
司祭 テモテ野村 潔	2007年4月1日付	新生礼拝堂管理牧師に任命する。
司祭 マタイ箭野直路	2007年4月1日付	音羽の森旧軽井沢礼拝堂勤務を命じる。
司祭 テモテ土井宏純	2007年4月1日付	軽井沢ショー記念礼拝堂牧師、稲荷山諸聖徒教会管理牧師に任命する。
主教 フランシス森 紀旦	2007年4月1日付	飯山復活教会管理牧師任命する。
司祭 アンブロージア後藤香織	2007年4月1日付	名古屋聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。
司祭 ヨシュア鈴木光信(退)	2007年4月1日付	司祭イグナシオ丁胤植のもとで、三条聖母マリア教会において囑託司祭として勤

務すること、及び長岡聖ルカ教会において
主日勤務することを委嘱する。
司祭 パウロ西澤誠太郎(退) 2007年4月1日付 司祭テモテ土井宏純のもとで、稲荷山諸
聖徒教会において、囑託司祭として勤務
することを委嘱する。

京都教区

司祭 パウロ松本正俊 2007年3月31日付 復職を許可する。
2007年4月1日付 中部教区への移籍を許可する。
司祭 アンデレ小松幸男(退) 2007年4月1日付 主教ステパノ高地敬のもとで、菰野聖マリ
ア教会(伝道所)において囑託司祭として
勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 アンデレ佐藤 徹(退) 2007年4月1日付 司祭パウロ北山和民のもとで、田辺聖公
会シオン会において囑託司祭として勤務
することを委嘱する。(任期1年)神愛修女
会での聖莫執行を許可する。

大阪教区

<信徒奉事者認可> 2007年1月1日付(任期1年)
(芦屋聖マルコ教会) 伊藤良三、佐藤耕一、長野紀子、錦織依子、森田斉子、和田育子
(石橋聖トマス教会) 服部喜代司、原楨寿子、牧口真理、山崎 信
(大阪城南キリスト教会) 金光秀晃
(大阪聖三一教会) 高田須磨雄
(大阪聖ヨハネ教会) 興津健蔵、廣政博
(川口基督教会) 内海良輔、大橋襄、片山敬子、斎藤誠、社領共美、田中宏、田中史、
名出敬、ユーワンフューム
(西宮聖ペテロ教会) 岡田東一、久保孝彦、倉戸ナオミ、瀬戸栄一、新村隆一
(守口復活教会) 西尾裕、原田契
(大阪聖パウロ教会) 浅田通子、田中恒久、水口正樹

《移 動》

館山聖アンデレ教会(横浜) FAX番号変更 0470-22-1357(電話と共通)
中部教区センター及び名古屋聖マタイ教会牧師館
住所変更
466-0034 愛知県名古屋市昭和区明月町2丁目28-1
(電話番号は変更無し)

韓国聖職神学研修会に出席して

1月29日から2月1日、韓国中部のスアポ温泉(ソウルと釜山のほぼ中間)において開かれた神学研修会に、日本聖公会より11名(管区事務所総主事、北海道教区2名、東京教区2名、中部教区2名、沖縄教区4名)が出席した。この研修会は大韓聖公会の聖職がほぼ全員参加して毎年行われているそうだが、今年初めて日本聖公会にもお誘いがあったという。

第1日目は、ACC総主事のケネス・キーロン師の「今日の聖公会における挑戦、危機、そしてチャンス」と題した基調講演。それを受けて翌日からA、B、Cの3グループに分かれて研修が進められた。この3グループにキーロン師とCMS及びUSPGの総主事が交互に加わる。このグループの分け方が面白い。Aは55



「おりん」を用いて朝の祈り

歳以上、Bは40歳から54歳、そしてCは20歳代と30歳代というものである。どういわけが特別参加の我らイルボン(日本人)の多くが、最も若いCグループに入れられた。

白熱した議論は聞いているだけでもすこぶる面白い。この内容を理解でき、また多少の意見を述べる事が出来たのは、柳司祭(東京)と成司祭(沖縄教区)の同時通訳のおかげである。北海道教区から一緒に参加した上平司

祭が「若い司祭たちの澀刺とした表情、キラキラした目は素晴らしいですね」と何度も言っていたが、これは同感。かつ年長者を大事にするというお国柄のせいかな、実に気持ちの良い4日間を過ごすことが出来た。

開会及び閉会式も印象深いものであった。まず開会聖餐式。歌と踊りの後、聖別祈りに入る。聖卓には、大きな円いカステラ?が二つと甘口のワイン。おそらく制定語を唱えたところで、我々がお寺や仏壇で目にする「おりん」がチーンと鳴る。その昔、自覚的な仏教徒であった私には、このチーンが何とも懐かしく響いた。続く陪餐は、二人一組になって聖卓に近づき、カステラをちぎって互いの口に入れ合う。次に白磁のぐい飲みにたっぷり注いだワインを乾杯して飲み干す。何がおいしいのか笑い声が絶えない。イエスが意図した聖餐は本来このようなものでなかったのか、とふと思った。礼拝における過度の厳粛さは、我々を息苦しくさせるだけだ。

次に閉会聖餐式。いろいろな趣向が凝らされていたが、極めつけは、若い聖職たちによって演じられた演劇『天国入国審査法廷』。研修のテーマ「挑戦、危機、チャンス」を十分に咀嚼し、ドラマに仕立てたもの。被告席に座るのは、



閉会式 谷主教による感謝の辞(通訳:柳司祭)

聖公会(ソングンヘ)。それを検事が攻め立て、弁護士が擁護する。証人と参考人も出廷する。迫真の演技に会場は爆笑の連続。最後に、裁判長である神さまが下した判決は、「ソ

ングンヘよ。お前は天国にも地獄にも行けない。もう一度地上に帰り、人々の間で信仰と希望と愛を实践せよ」というものであった。ナルホド、ナルホド・・・。

新しい「聖地巡礼」を考えるエルサレム教区訪問団に参加して

2月8日(木)～15日(木)の8日間(成田7日発～17日着)、聖地を訪問した。

訪問団のディレクターは山野繁子司祭(東京教区)、チャプレンは大友正幸司祭(北海道教区)、現地ディレクターはKamal Farah司祭(聖ジョージ・カレッジ教授)。

「これまでの聖地巡礼は、旧新約聖書にまつわる過去の問題に終始し、苦難のただ中にあるかの地の人々に目を向けることはほとんどありませんでした。聖公会の教会が、エルサレムにも、またナザレにもあるにもかかわらず、そうした教会の信徒と関係を持つこともほとんどありませんでした。...このような問題認識に基づき、北海道教区と東京教区のイニシアティブによって、この度のエルサレム教区訪問が計画されました。」(新しい「聖地巡礼」を考えるエルサレ

パウロ 阪田隆一(管区事務所総務主事)

ム教区訪問団案内文)

北海道教区(大友正幸司祭)と東京教区(神崎雄二司祭)から出された各教区への呼びかけに応じて、北海道教区2名、東京教区5名、大阪教区1名、神戸教区2名、九州教区2名、NCC(日本キリスト教協議会)1名、管区事務所1名の計14名がこの訪問団に参加した。

各教区から遣わされた参加者は、新しい「聖地巡礼」のあり方を考え、計画していくために、そして、総務主事の私は、日本聖公会の諸教区・教会が捧げる献金を通して、エルサレム教区あるいはパレスチナと日本聖公会がどのように関わっているのかを実際に見て、知るためであった。

訪問団の目的は、以下の3つに要約される。



壁で隔てられたベタニア。

(写真: 真野玄範)

イスラエルは国連が認めたよりもはるかに広い範囲をエルサレムと主張し、壁で囲いこんでいる。

- (1)エルサレム教区の関係者と、新しい聖地巡礼のあり方について協議する。
- (2)その考えに基づいて、部分的ではあるがそうした巡礼を実際に行い、これまでと異なる聖地巡礼のあり方を体験する。
- (3)エルサレム教区のおかれている現実を知り、同教区の働きを学び、またその人々と交流する。

従って、具体的なプログラムには、(1)従来の聖地巡礼、(2)パレスチナの教会との交流および教会がおかれているパレスチナの現在を見てくることの二つの要素が盛り込まれている。以下、「新しい聖地巡礼」を特徴づけるプログラムについて、また見聞きしたことについて断片的に、感想とともに述べる。

- 1.エルサレム教区が経営する教育施設、諸施設は40以上あると聞いた。その内、ナザレのリア主教学校、ラマラの学校、職業訓練施設を訪問した。教育、福祉等の社会事業の経営は、教会の信徒が減っていく中で、あるいはその存続が危ぶまれるときに、キリスト教(の教会)が何とか持ちこたえていこうとするための方途であることを現教区主教も後継主教も同様に強調されていた。(エルサレム教区現主教はリア・アブ・エル・アサール主教、3月末に退職。後継主教はスヘイル・ダワニ主教)
- 2.パレスチナ自治区、特にラマラに入るときに、検問所を通過し分離壁を見て、あらためてパレスチナの苦難を垣間見る気がした。しかし、ラマラはパレスチナの公的機関・金融機関が集中しているところであり、意外に経済的な活気を感じた。
- 3.同じパレスチナでも、エリコに入るときのチェックは、ラマラのそれと比べると緩やかであった。また温暖で果物が豊富なエリコは経済的にも比較的豊かな感じを受ける。

とはいえ、市役所の建物が爆撃されたままに残っており、そしてパレスチナではそういう光景にたびたび出合った。

- 4.パレスチナ、イスラエルそれぞれの視点からの講義がプログラムの中に入れられていたことは、この聖地巡礼を特徴づけるものであり、有意義な時間であった。
- 5.エルサレム市内にあるサビール(SABEEL = ECUMENICAL LIBERATION THEOLOGY CENTER 解放の神学研究所)を訪問した。この働きについての評価は高く、期待されていると感じた。
- 6.日本聖公会からの献金の奉獻先として、どこが適当か、どこが一番必要としているかある程度探ることができた。聖公会の教会・施設でなくとも、たとえばJVC(日本国際ボランティア・センター)の働きにささげるとは有効であると思う。昨年、JVCには日本聖公会内の教会から140万円が捧げられている、と聞いた。ガザには行けなかったが、ガザで活動しているJVCワーカーの藤屋リカ氏、小林千香子氏から、ガザのヴォランティア活動について話を聞く。ここでは成長期に必要なミネラルなどの栄養を摂るために幼稚園児にミルクとビスケットを配給する活動を展開している。
- 7.聖地巡礼の部分については、現地ディレクターのカマル司祭の方法(聖ジョージ・カ



オリブ山近くの壁。壁建設に抗議する落書きがたくさん書かれている。(写真:原田佳城)

レッジの研修コースの方法 訪問した場所あるいは移動のバスの中で聖書を読み、聖書的、歴史的、伝承的、瞑想的な解説を受け、質問があり応答が求められて、時にはロールプレイがあり...)は、初めての私にとっては情報過多で消化しきれなかった。それでも、カマル司祭によれば、聖ジョージの通常の研修コースに比べれば、きわめて初歩的なものであるということであった。

8. キリストの聖誕地ベツレヘムは、イスラエルの分離壁建設と紛争激化によって経済が破綻していると聞いていたが、実際に見て、貧しく荒んだ感じを受けた。バスから降りて聖誕教会に行くまでの7、8百メートル間、観光客には小さな子どもたちがまとわりついてくる。聖地巡礼をする恵まれたクリスチャンたちは、イエスが誕生された地のそうした子どもたちに心の痛みを覚えながらもほとんどな

すすべなく通り過ぎていく。

9. 現地教会との接触はパレスチナの西岸地区ラマラの教会だけであった。ラマラの教会も、訪問したときに葬儀があり(この日は遺族が弔問を受ける日であった。ただし、一行は遺族および弔問客と昼食を共にした)通常の交流はできなかった。

この点では目的が十分に果たされたとはいえない。現地の教会との交わりがスムーズに行かなかった理由は、エルサレム教区内の都合と事情による。

最後になりますが、この聖地巡礼のため、エルサレム教区との折衝および全般にわたって準備に当たられ、お世話くださった東京教区の神崎司祭、宣教主事宮脇博子さんのご尽力に感謝します。



ガリラヤ湖: イエスの時代の漁船を復元。20 ~ 30人が乗ることができる大きな船です。(写真: 真野玄範)

パキスタン北部地震復興支援活動の現状

パキスタン聖公会・ペシャワール教区から届いた報告書により、現地に於ける復興支援活動の現状を報告いたします。

2005年11月、12月、2006年2月、3月に地震被災者支援のため、聖路加国際病院の医師とパキスタン聖公会ペシャワール教区の現地スタッフが合計約1か月半の医療活動を行いま

した。聖路加の医師が帰国した後は現地スタッフがこの活動を継続しています。

現在は開設された2箇所の診療所と、移動クリニックを1グループ組織して活動しています。診療所開設のための場所選定にはかなりの時間をかけ、最終的に聖路加病院の医師たちが診療活動を行っていたバラコット近郊のショールという町と、ペシャワール教区が全面的に住民の生活を支援している山岳地域のパテカという村を選んで開設しました。震災後暫くの期間

は世界中の支援団体が活動していましたが、現在はほとんどの団体が撤収し、この地域に必要な日常の医療行為はこの教区の医療活動が満たしており、現地住民からとても感謝されています。パテカの診療所は2006年11月に活動を開始しました。

また、移動手段を持たない地域の住民のた

めに移動クリニックが被災直後に開始され、現在でもその必要性は大きく、これを継続しています。これは医師と看護師が車で、徒歩の移動手段しかない地域(主に山岳地域)を定期的に訪問し医療活動を行うものです。

(渉外主事 八幡眞也)

2007年2月12日

国立ハンセン病療養所 星塚敬愛園

園長 有川 勲 様

厚生労働省 医政局

局長 松谷 有希雄 様

日本聖公会正義と平和委員会

委員長 主教 谷 昌二

胎児火葬についての要望書

国立ハンセン病療養所に、強制墮胎させられた胎児の標本が115体保存されていることが判明し、その後、各療養所において火葬と慰霊のための祈りが献げられてきました。そしてこの度、星塚敬愛園において、最後の18体が火葬されるとの報に接しました。

火葬される墮胎児のうち、6体は身元不明のまま火葬されるとのこと、しかし一方で、少なくとも4家族が強制墮胎された自分の子どもを探しておられると聞いています。

わたしたち日本聖公会正義と平和委員会は、ハンセン病を患ったゆえに、人間としての尊厳を踏みにじられ、さらに宿した子どもを強制的に墮胎させられた遺族の方々の悲しみと痛みを思いを馳せるとき、標本とされた胎児たちが、遺族の意思と意向にそって火葬されることを強く要望します。

身元不明の6体の胎児たちについては、火葬を中止し、胎児たちの身元確認のための徹底的な調査を行うことを求めます。

国のハンセン病政策の誤りは、一人ひとりの患者の尊厳を無視したことから始まりました。この世に生を受けることのできなかつた胎児たちの扱いについては、決して胎児と遺族の尊厳を無視することなく行われますようお願い致します。
